

付 則 2

管工事出来形及び品質の
規格値ならびに施工管理基準

管工事出来形及び品質の 規格値ならびに施工管理基準

この工事施工管理基準は、工事共通仕様書第 112 条、第 113 条に規定する工事の規格値並びに施工管理の基準を定めたものである。

1 目的

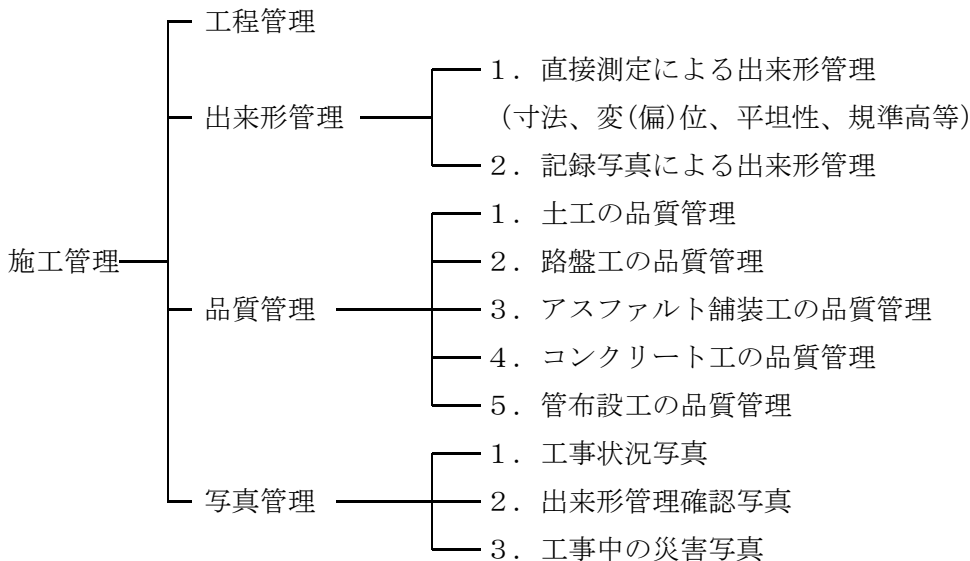
この基準は、水道工事の施工について、契約書類に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保を図ることを目的とする。

2 適用

この基準は、八戸圏域水道企業団が発注する水道工事について適用する。ただし工事の種類、規模、施工条件等により、この基準によりがたい場合は、特記仕様書及び監督職員の指示で他の方法によることができる。

3 構成

本基準における施工管理の対象項目及び構成は次のとおりとする。



4 管理の実施

- (1) 受注者は、工事施工前に施工管理計画及び施工管理担当者を定めなければならない。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行なわなければならない。
- (3) 測定（試験）等は、工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施しなければならない。
- (4) 測定（試験）等の結果は、その都度記録し適切な管理を行なわなければならない。

5 管理項目及び方法

(1) 工程管理

イ. 実施工程表

工種：工事の内容、工事の規模、工期および現場の実情等を考慮した方式（ネットワーク（PERT）又はバーチャート方式など）で作成した実施工程表により、管理するものとする。また工程を変更した場合もその都度変更実施工程表により管理するものとする。

ロ. 工程報告

工事週報は、1週間ごとに提出し、その都度実施工程表に記入し監督職員に報告するものとする。

(2) 出来形管理

イ. 出来形管理は、出来形管理基準により管理し、設計値と実測値を対比して記録した出来形図又は、出来形表（管理図を含む）を作成するものとする。

ロ. コンクリート構造物等（流量計室、減圧弁室他）については、設計図等により、設計値と実測値（朱書き）が比較対照できるものを作成する。

(3) 品質管理

イ. 品質管理は、品質管理基準により実施するものとする。

ロ. 試験基準の回数等は最少数とする。

ハ. 試験区分で「必須」となっている試験項目は、全面的に実施するものとする。

ニ. 試験区分で「その他」となっている試験項目は、特記仕様書で指定されたものを実施するものとする。

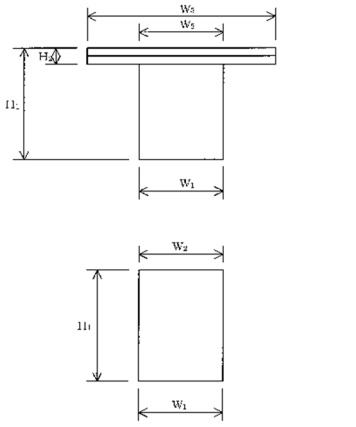
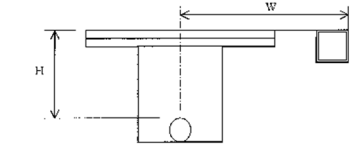
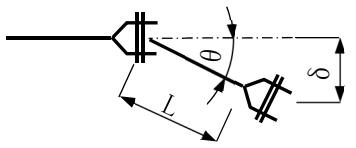
ホ. 土質試験の様式については、必要に応じて土質工学会の様式を使用することができる。

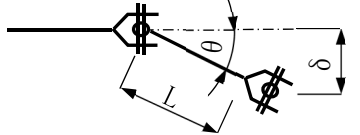
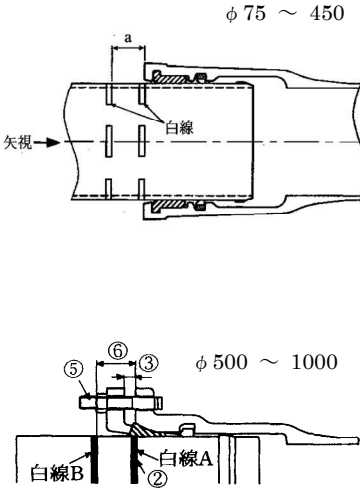
(4) 写真管理

イ. 工事写真は、施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所（管）の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害写真等を撮影し、整理しておくものとする。

ロ. 工事写真の撮影箇所、回数等は工事記録写真撮影基準による。

出来形の規格値及び施工管理基準

番号	工 種	項 目	規 格 値 (mm)	施 工 管 理 規 準			測 定 箇 所		
				測 定 規 準	結果表によるもの（設計値と実測値の差を記入する）	設計図（展開図、見取図）に実測値を朱書きするもの			
1	配管土工	幅	W ₁ W ₂	-30	施工延長50mごとに1箇所測定する。	実測値で図面表示の不可能なものは結果表にとりまとめる。			
		深 さ	H ₁	+100 -50					
			H ₂	-25					
2	管布設工	延 長		-0					
		位 置 W		±150	施工延長50mごとに1箇所、その他分岐、弁栓類据付箇所等を測定する。	実測値で図面表示の不可能なものは結果表にとりまとめる。			
		土 被 H		+100 -50					
		許容偏位 δ	D I P NS 形			偏位は管1本ごとの継手部で測定する。		出来形測定結果表にとりまとめる。	
			φ 75 × 4m	280					
			φ 100 × 4	280					
			φ 150 × 5	350					
			φ 200 × 5	350					
			φ 250 × 5	350					
			φ 300 × 6	310					
			φ 350 × 6	310					
			φ 400 × 6	310					
			φ 450 × 6	310					
φ 500 × 6	350								
φ 600 × 6	290								
φ 700 × 6	260								
φ 800 × 6	220								
φ 900 × 6	210								
φ 1000 × 6	190								

番号	工 種	項 目	規 格 値 (mm)	施 工 管 理 規 準			測 定 箇 所
				測 定 規 準	結果表によるもの(設計値と実測値の差を記入する)	設計図(展開図、見取図)に実測値を朱書きするもの	
2	管 布 設 工	許容偏位 δ	D I P GX形 $\phi 75 \times 4m$ 280 $\phi 100 \times 4$ 280 $\phi 150 \times 5$ 350 $\phi 200 \times 5$ 350 $\phi 250 \times 5$ 350 $\phi 300 \times 6$ 420 $\phi 350 \times 6$ 420 $\phi 400 \times 6$ 420 $\phi 450 \times 6$ 420	偏位は管 1 本ごとの継手部で測定する。	出来形測定結果表にとりまとめる。		
		胴 付 間 隔	D I P NS形 (a, ⑥) [X] $\phi 75$ 67 ~ 83 6以内 $\phi 100$ 66 ~ 84 8 " $\phi 150$ 64 ~ 86 12 " $\phi 200$ 63 ~ 87 15 " $\phi 250$ 61 ~ 89 19 " $\phi 300$ 62 ~ 88 17 " $\phi 350$ 60 ~ 90 20 " $\phi 400$ 59 ~ 91 22 " $\phi 450$ 58 ~ 92 25 " $\phi 500$ 55 ~ 95 31 " $\phi 600$ 55 ~ 95 31 " $\phi 700$ 54 ~ 96 32 " $\phi 800$ 54 ~ 96 32 " $\phi 900$ 54 ~ 96 32 " $\phi 1000$ 54 ~ 96 33 "	胴付間隔は管 1 本ごとの継手部で測定する。 受口端面から 2 本目の白線までの間隔 a, ⑥を 4 箇所測定する。	継手チェックシートにとりまとめる		 <p>X : a, ⑥の最大値-最小値</p>

番号	工 種	項 目		規 格 値 (mm)	施 工 管 理 規 準			測 定 箇 所
					測 定 規 準	結果表によるもの(設計値と実測値の差を記入する)	設計図(展開図、見取図)に実測値を朱書きするもの	
3	路 盤 工 (下層路盤工) (上層路盤工)	幅	W ₁ W ₂	- 5 0	幅、厚さは延長50mごとに1箇所測定する。	実測値で図面表示の不可能なものは結果表にとりまとめる。		
		厚 さ	H ₁ H ₂	下層路盤工 - 4 5 上層路盤工 - 3 0				
4	基 層	幅		- 2 5	幅、厚さは延長50mごとに1箇所測定する。 コアーは延長150mごとに1箇所採取して測定する。 (150m未満については1箇所) 小規模(50㎡未満)は不要			
		厚 さ		- 1 2				
5	表 層	幅		- 2 5	幅、厚さは延長50mごとに1箇所測定する。 コアーは延長150mごとに1箇所採取して測定する。(150m未満については1箇所) 小規模(50㎡未満)は不要	① 幅、厚さ、平坦性で測定値の数が少ない場合。		
		厚 さ		- 9				
		平坦性	3mプロフィールメーター、標準偏差(σ) 2.40mm以下	平坦性はアスファルト舗装要綱による。(3mプロフィールメーターによる測定を標準とする。)		半断面舗装(3m)を標準とする。		

番号	工 種	項 目	規 格 値 (mm)	施 工 管 理 規 準			測 定 箇 所
				測 定 規 準	結果表によるもの(設計値と実測値の差を記入する)	設計図(展開図、見取図)に実測値を朱書きするもの	
6	仕切弁筐	偏心性	仕切弁筐中心				標準図参照
7	地上式消火栓 据付工	土 被 H	+100 -50	据付図の寸法表示箇所を測定する。		図面表示箇所の実測値を記入する。	標準図参照
		砕石幅 a ₁ a ₂	-30				
		切込砕石基礎幅 a ₁ a ₂	-30				
		厚 さ t ₁ t ₂	-20				
8	地下式消火栓 据付工	土 被 H	+100 -50	据付図の寸法表示箇所を測定する。		図面表示箇所の実測値を記入する。	標準図参照
		コンクリート基礎 a ₁ a ₂	-30				
		厚 さ t ₁ t ₂	-20				
		土 被 H	+100 -50				
9	空 気 弁、 バタフライ弁室	切込砕石基礎幅 a ₁ a ₂	-30	据付図の寸法表示箇所を測定する。		図面表示箇所の実測値を記入する。	標準図参照
		コンクリート基礎 a ₁ a ₂	-30				
		厚 さ t ₁ t ₂	-20				

その他品質の規格及び施工管理基準は
青森県県土整備部制定「共通仕様書」による。

出来形測定結果表

工事名称
工事種
種目

監督員	副監督員

受注者 _____ 印
測定者 _____ 印

出来形測定結果表

工種 配管土工
 管種
 形状寸法

受注者
 測定者

印
 印

月 日	測 点	幅 W ₁ (mm) W ₂			深さ H ₁ (mm) H ₂ (mm)			位置W (mm)			土被H (mm)			記 事
		設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	

出来形測定結果表

工 種 アスファルト舗装工
 種 目 幅厚さ

受注者
測定者

印
印

月 日	測 点	幅 (mm)			基層厚 (mm)			基層厚 (mm)						全 層			記 事
					粗粒度 A s			密粒度 A s			細粒度 A s						
		設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	

品質測定結果表

監督員	副監督員

工事名称
工事種目

受注者 _____ 印
測定者 _____ 印

品質試験結果表

工種 路盤工
種目

受注者
測定者

印
印

月 日	測 点	厚さ (mm)			密度 X ₃ (%以上)			通過量 mm 粒度 (%以内)			通過量 mm 粒度 (%以内)			記 事
		設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	

品質管理結果表

工 種 アスファルト舗装工
種 目

受注者
測定者

印
印

月 日	測 点	厚さ (mm)			密度 (%)			通過量 mm 粒度 (%以内)			通過量 mm 粒度 (%以内)			アスファルト量 (%)			記 事
		設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	

土木研究所式貫入試験結果表

(打撃回数による方法)

工 事 名 称

受 注 者

Ⓔ

測 定 者

Ⓔ

位 置	年 月 日	貫入深さ	打撃回数	判 定	貫入深さ	打撃回数	判 定
No.〇〇	年 月 日						

位 置	年 月 日	貫入深さ	打撃回数	判 定	貫入深さ	打撃回数	判 定
No.〇〇	年 月 日						

位 置	年 月 日	貫入深さ	打撃回数	判 定	貫入深さ	打撃回数	判 定
No.〇〇	年 月 日						

判定基準 (八戸圏域水道企業団)	貫入 10 cm に対する打撃回数	区 分	判 定
	35 回 ~	優 良	A
	25 回 ~ 34 回	良 好	B
	19 回 ~ 24 回	普 通	C
	13 回 ~ 18 回	不 良	D
	1 回 ~ 12 回	きわめて不良	E